

科目分類	専門職の教育			開講学科	医療情報学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
15108	2	前期	選択	1	30
授業科目名 (英文)	国際疾病分類法演習 I (ICD-10 Coding exercise I)				
担当教員名	奥村 通子				
授業の概要及び到達目標					
<p>疾病や手術分類は診療情報管理士としてその専門性が最も求められる業務である。国際疾病分類 (ICD-10) の概念、種類、目的及び診療録に記載された内容について、定められたルールに基づいて分類コードをつけるための理論と技法を取得する。ICD-10 の特徴と具体的な使用法を理解し、更に腫瘍の分類 (ICD-0、Mコード) 理論と知識を深め、その活用能力を身につける。</p> <p>①国際疾病分類の歴史、意義、使用目的を理解する。 ②国際疾病分類群ファミリーの概念と構想を理解する。 ③国際疾病分類の「内容例示表」「索引表」の表示や符号を理解する。 ④主要病態の選択ルールと死亡原因の選択ルールを習得し、適切な疾病分類ができる。</p>					
準備学習等					
<p>○テキスト：「診療情報管理Ⅳ 専門 11 章」(203-280 頁) 第 9 版 基づいて講義する。 ○予習は事前各回ごとのテキストを熟読しておくこと。</p>					
11-1 国際疾病分類概論					
第 1 回	国際疾病分類概論	わが国の人口動態統計	11-1-1		
第 2 回	国際疾病分類概論 (ICD) の歴史		11-1-2		
第 3 回	国際疾病分類概論 (ICD) の現状		11-1-3		
第 4 回	国際疾病分類概論 (ICD) 構造		11-1-4		
11-2. 国際統計分類ファミリー論					
第 5 回	国際統計分類ファミリー (WHO-FIC) の概念と構想		11-2-2		
	国際生活機能分類 (ICF)		11-2-1		
第 6 回	国際疾病分類-腫瘍学 (ICD-0)		11-2-1		
第 7 回	医療行為に関する分類と ICHI		11-2-1		
11-3 . 国際疾病分類の利用					
第 8 回	原死因選択ルール			11-3-1	
第 9 回	各原則・ルールの内容			11-3-1	
第 10 回	原死因のルールの症例演習			11-3-1	
第 11 回	主要病態のコーディングと再選択ルール			11-3-2	
第 12 回	「主要病態」及び「その他の病態」のコーディングのガイドライン			11-3-2	
第 13 回	診断群分類 (DPC) における国際疾病分類 (ICD) の利用			11-3-3	
第 14 回	ICD を用いるうえでの注意点			11-3-4	
第 15 回	まとめ				

成績評価の方法	定期試験 85%、小テスト 5%、出席状況 5%および学習態度 5%により総合的に評価する。
テキスト	<p>①「診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅳ 専門・8章～12章」第9版, 2017. 5. 26、一般社団法人日本病院会, (株)日本病院共済会、</p> <p>②「疾病、傷害および死因統計分類提要 ICD-10 (2013年版) 準拠」第1巻 (H28. 5. 25 第1版1刷) 厚生労働省大臣官房統計情報部 一般財団法人厚生労働統計協会 (ISBN978-4-87511-674-5)</p> <p>③「疾病、傷害および死因統計分類提要 ICD-10 (2013年版) 準拠」第3巻 (H28. 9. 20 第1版1刷) 厚生労働省大臣官房統計情報部 一般財団法人厚生労働統計協会、ISBN978-4-87511-676-9。</p> <p>④「診療情報管理士教育問題集 2017 専門国際疾病分類法編」一般社団法人日本病院会通信教育委員会、(株)日本病院共済会 1</p> <p>⑤必要に応じてプリントを配布する。</p>
参考図書	<p>①「国際疾病分類腫瘍学 (ICD-O-3) 第3版」H26. 9. 10 厚生労働省大臣官房長統計情報部：一般財団法人厚生統計協会 (ISBN978-487511-616-5)</p> <p>②「疾病、傷害および死因統計分類提要 ICD-10 (2013年版) 準拠 第2巻」総論 厚生労働省大臣官房長統計情報部 一般財団法人厚生労働統計協会 (ISBN978-4-87511-675-2)</p> <p>③「診療情報学」第2版 2015, 9 第2版第1印刷 日本診療情報管理学会編集、医学書院 (ISBN978-4-260-02397-9)</p> <p>④その他は講義中に適宜紹介する。</p>
備考	<p>授業開始後の入室は、原則として禁止する。20分以上の遅刻は欠席とする。</p> <p>国際疾病分類 (ICD-10) についての概略を理解し、わが国における利用の現状を把握し理解することを目標とし、国際疾病分類法演習Ⅱの基礎となる。</p> <p>オフィスアワー：授業終了後、教室で質問を受け付ける。</p> <p>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図をご確認ください。</p>
授 業 計 画	
<p>下記の授業計画にて実施するが適宜その都度資料を配布する。</p> <p>*テキスト：「診療情報管理Ⅳ 第11章 第9版</p> <p>第11章 国際統計分類Ⅰ (p203-p280)</p> <p>11-1. 国際疾病分類概論</p> <p>第1回 国際疾病分類概論 わが国の人口動態統計 (203-216) 疾病分類とその意義、国際疾病分類の使用目的、国際疾病分類でのわが国の利用 国際疾病分類を利用した統計分類表</p> <p>第2回 国際疾病分類概論 (ICD) の歴史 (217-220) 「国際疾病分類」誕生までの経緯、「国際疾病分類」誕生とその後、</p>	

第3回 国際疾病分類概論 (ICD) の現状 ICD-10 の改善、	(220-222)
第4回 国際疾病分類概論 (ICD) 構造 ICD-10 編さんの基準	(233-227)
11-2. 国際統計分類ファミリー論	
第5回 国際統計分類ファミリー (WHO-FIC) の概念と構想 国際生活機能分類 (ICF)	参考資料(269-280) (228-239)
第6回 国際疾病分類-腫瘍学 (ICD-O)	(239-242)
第7回 医療行為に関する分類と ICHI	(243-244)
11-3 . 国際疾病分類の利用	
第8回 原死因選択ルール 死因の定義と死亡診断書、原死因の選択ルール	(245-250)
第9回 各原則・ルールの内容	(251-258)
第10回 原死因のルールの症例演習	(253-257)
第11回 主要病態のコーディングと再選択ルール 主要病態の定義	(258-262)
第12回 「主要病態」及び「その他の病態」のコーディングのガイドライン	(251-252)
第13回 診断群分類 (DPC) における国際疾病分類 (ICD) の利用 DPC と診療情報管理士、DPC と ICD コーディング	(263-264)
第14回 ICD を用いるうえでの注意点 コーディングの目的、コーディングに際しての心構え、情報の精度を高めるために	(265-268)
第15回 まとめ	